



「絵本とわらべうたの会」2023年度⑨

日時 1月16日(火) 10:00~11:00
場所 大富士交流センター 2階和室
申込み 12月19日(火)~

就園前の子どもとお母さんを対象に、わらべうたで楽しいひとときを過ごします。

事前申し込みが必要ですが、当日来ていただいても定員に余裕がある場合は参加いただけます。

市民読書サポーターのいる日程 12月

市立中央 図書館 (10:00~ 12:00)	2日(土)	9日(土)
	16日(土)	23日(土)
西公民館	5日(火) 10:30~11:30	



冬休みにおすすめの本の紹介

小学校低学年から



大雪

ゼリーナ・ハンツ文
アロイス・カリジェ絵
生野幸吉訳
岩波書店

ウルスリは両親と妹と一緒にアルプスの山の村に暮らしている。ウルスリは、子牛や子ヤギの世話に忙しい。あしたは子どものそり大会。ウルスリは、去年のそりを色とりどりに飾ったり、塗り直したり、仲間をあつと言わせようと一生懸命。そしてそりを飾る毛糸の房をつくるため、妹のフルリーナをふもとの村の店まで行かせる。フルリーナは雪の中を出かけていくが、毛糸を手に入れた帰り道、風がごうごう音をたて、あたりは急に暗くなる…。

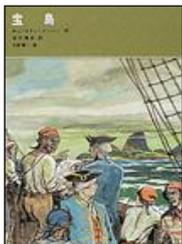


へムロック山のくま

アリス・デルグレーシュ 作
松岡享子 藤森和子 共訳
太田大八 画
福音館書店

ジョナサンは、へムロック山のふもとに住んでいる8歳の男の子。お母さんに頼まれて、へムロック山のむこうに住んでいるおばさんの家に大きなシチュー鍋を借りにいく。へムロック山にはクマがいるかもしれないという。ジョナサンはたったひとりで、「へムロック山には、クマなんかいない。いないったらいい…」と、元気にうたいながらのぼっていった。ところが、おばさんの家でついゆっくりしすぎて、帰りは遅くなってしまった。すると、薄暗い木の間から大きなふたつの黒い影が…。

小学校高学年から



宝島

スティーブンソン 作
坂井晴彦 訳
福音館書店

ジムは父が営む宿屋に、老海賊がくる。彼は、フリント船長の宝を埋めた島の地図を持っていた。彼の死後、地図を手に入れたジムは、地主さんや医者のリブジー先生と宝島へ向かう。船中、コックのシルバーが、宝を狙う海賊の頭だとわかる。島に着くや、海賊たちとの戦いがはじまる。見方は7人、対する敵は19人。ジムたちの運命は…。

宝島の地図、登場人物、風景の描写がリアル。完訳で読んでほしい。



ハイジ(上)・(下)

J・シュペーリ 作
バウル・ハイ 画
矢川澄子 訳
福音館書店

アルプスの山で祖父と一緒に暮らしていたハイジは、ある日フランクフルトのお屋敷に連れていかれ、病気のクララのお相手をする事になる。山恋しさのあまり病気になってしまったハイジは、再び山に戻る事になり、アルプスの自然の中での生活を取り戻す。

明るく、心あたたかなハイジは、周囲の人たちに常によるこびをもたらし、読み手にも、前向きに生きる事への希望を与える。ていねいに訳された完訳で味わってほしい。